

新しいまちづくりのランドデザインに関する 関西経済3団体との意見交換会における主な意見

○全体を通じた意見

- ・今後は経済中心や車中心ではないと考えており、めざすべき都市像に「人中心」を掲げていることに非常に賛同できる。2050年まで通用する概念であり、今後の大阪のまちづくりを紹介する際の重要なキーワードとなる。
- ・めざすべき都市像に掲げている「イノベティブ」「ウェルビーイング」「サステナブル」というキーワード、まちづくり推進の視点の「ダイバーシティ」「コ・クリエーション」「リソース」のいずれも賛同できる。しかし、これらが戦略1から5にどのように紐づくのかがわかりづらい。
- ・万博のコンセプト(例:未来社会の実験場)を次につなげていくという趣旨の記述が、前半部分にもう少しある方が良いのではないかと。それが万博のレガシーにつながるのではないかと。
- ・最近の潮流や社会変容をふまえたキーワードは盛り込まれている印象であるが、その中で何を重点的に打ち出していくかが重要である。例えば、グローバル化により様々なものが均一化していくなかで、歴史や文化に着目することも非常に重要であるとする。
- ・都市の「ポテンシャル」という言葉は約30年前から使用している言葉であり、現在も実現できていないポテンシャルとは何なのか、という疑問がある。むしろ、今ある資源を活かすという視点から「ストック」という言葉を用いてはどうか。ポテンシャルという言葉を使うなら、人がポテンシャルを発揮できる都市をめざすという趣旨の方が、ランドデザインの世界観にマッチする。
- ・他の計画とランドデザインとの関係性はどのようになっているか。
- ・東西二極の一極を担う副首都とあるが、「副首都」の定義をわかりやすく記述すべき。

○拠点エリア

- ・地区の特性が異なると考えられる新大阪と大阪を一体的に捉えているが、どのような考えか。
- ・新大阪・大阪エリアを一体的に捉えるのは良いが、鉄道や道路による接続以外に、どのようにして一体性を持たせるか。例えば、2050年に向けては、自転車による接続や淀川の活用なども含めてアイデアを打ち出すことができれば良い。
- ・拠点を横につなぐという視点が弱いように感じる。例えば、東部大阪や夢洲などをつなぐ東西軸は今後非常に期待される都市軸と考えられるため、軸の強化を強く打ち出した方がよい。
- ・拠点エリアの取組について、2050年に向けて、現在進行中のプロジェクト以外の記述をもう少し増やすべき。また、東西軸や拠点連携の記述をもう少し打ち出してほしい。
- ・大阪市内の都心では公民連携でのまちづくりについて記述があるが、2050年に向けた計画であることから、現在行っている場所以外でも、公民連携のまちづくりに関する記述を行ってほしい。

い。

- ・まちをつくるだけでなく、維持管理やイベント等の情報発信についても、公民連携で進めることができれば非常に良い。

○南部大阪の活性化

- ・大阪府南部の泉州と南河内を含む地域を「グレーターミナミ」と位置づけ、同地域の活性化に向けた取組を進めており、この考え方をランドデザインに盛り込んでほしい。
- ・サイクルロードに関する取組について、特に泉州地域の商工会議所からの期待が大きい。行政の境界を越えてサイクルロードが整備されていると、利用者の回遊を生むことができる。

○大阪ベイエリア

- ・大阪湾に関わるブルーオーシャンも重要なキーワードであると認識。海は世界と日本をつなぐ重要な役割を果たすことから、広域的な視点で大阪湾を活用したまちづくりに関する策を打ち出せると良い。
- ・大阪ベイエリアの取組について、全体戦略として、ブランド化につながる企画やインフラ整備等を打ち出せると良い。
- ・夢洲・堺・南部の水上ネットワークの形成について、当該エリアの商工会議所は観光振興につながるとして非常に大きな期待を持っている。大阪湾での観光船の運用について、規制緩和などを行うことを検討してほしい。

○デジタル化への対応

- ・デジタル化時代のまちづくり、拠点づくり、住民サービスを意識すべき。府内 43 市町村のデータ連携など、デジタル化時代のまちづくりの在り方を考えるべき。

○推進体制・取組ロードマップ

- ・ランドデザインの推進体制については、民間の意見を取り入れるような体制を整えてほしい。
- ・取組ロードマップについては、中期・長期で何をめざすのかを明確に記述することにより、民間は計画的にまちづくりに参画できる。

以上